

フィルムコミッション事業の現状と今後の展望 ー地域におけるネットワーク形成とその効果ー

平松 優奈

フィルムコミッションとは、映画やテレビドラマなど、映像コンテンツのロケーション撮影を誘致し、その実施を円滑に進めるための支援をおこなう非営利公的機関である。日本では、2000年頃から各地で設立され始めた。その活動は、地域の経済、観光、文化などの振興につながるものと期待されている。2001年に組織された全国フィルム・コミッション連絡協議会（2009年にジャパン・フィルムコミッションへと業務移行）が2000年代中頃におこなった調査では、活動の上での最も大きな課題として人材の確保と育成が挙げられた。その後、地方創生やインバウンドの推進など、フィルムコミッションを取り巻く環境には変化が生じている。そこで、本研究では、フィルムコミッション事業の現状を把握するための調査を行い、今後の展望を考察した。

本研究の調査方法は、全国のフィルムコミッションを対象としたアンケート調査である。フィルムコミッションの実績の目安となり得るロケの誘致件数や、活動において重視していること、今後重点的に取り組みたいこと等について尋ねた。162団体に質問紙を送付し、96団体から回答が得られた。回答率は59.3%であった。

アンケート調査の結果、フィルムコミッションが直面する課題は、以前は、人材の確保・育成が主であったのに対し、現在は、撮影支援のより一層の充実であること、また、フィルムコミッションが活動の目的として最も重視していることは地域の振興であること、海外からの撮影の誘致については、国やフィルムコミッションを取りまとめる組織と実際にロケの支援を行うフィルムコミッションとの間に意識の違いが見られることがわかった。さらに、一般に都市周辺のフィルムコミッションに比して誘致数が少ないとされる地方のフィルムコミッションであっても、都市周辺に匹敵する数の誘致をおこなっているフィルムコミッションが各地に存在することがわかった。

考察の結果、地方にあって多くの誘致をおこなっているフィルムコミッションには、相互に緊密な連携をとるネットワークが形成されていることが明らかになった。ネットワークによって各地域の情報を共有することで、小規模なフィルムコミッションでは困難なレベルのきめ細かい体制を構築し、ロケ支援の充実を実現しているといえる。

今回の調査では、多くのフィルムコミッションが、今後、支援体制の整備や撮影の誘致活動に重点的に取り組みたいと答えている。ロケ支援の一層の充実を目指そうとする地方のフィルムコミッション事業にとって、本研究から明らかになったフィルムコミッション相互のネットワーク形成による情報共有とその効果は、大きな示唆となると考えられる。

(指導教員 辻泰明)